

会議録：「第 5 回恵那市産業振興ビジョン検討部会（工業部会）」

日時：平成 29 年 10 月 3 日（火曜日） 10:00～

場所：恵那市役所会議棟大会議室

参加者：別紙参照

1. 開会

○商工課「これより第 5 回恵那市産業振興ビジョン検討部会工業部会を始めます。今回から、検討方法や方向性が部会ごとで異なるため、他の部会とは別開催としました。」

2. あるべき姿と現状の掘り下げ

○商工課「まず、前回の部会では自分たちの『強み』や『魅力』について意見を出していただき、それらを生かしてピンチをチャンスに変えるには、どうしたらいいか、自分たちに何が足りないのか考えていただきました。その内容は、第 4 回恵那市産業振興ビジョン検討部会会議録にまとめてありますので、最初に説明します。」

～第 4 回議事録を説明～

○三輪「これまでの議論の中で人手不足という問題が見えてきた。今回は、『働きやすい環境づくり』をテーマに具体的な策を出していきたい。企業として市として何ができるのか、何をやるべきか。

まず、先進地の事例を VTR で紹介します。可児市の企業で、企業内保育所を設置し、従業員の働く環境を整備しているものです。

～VTR～

働きたい職場＝選ばれる企業となる。人手不足の状況下ではパートの労働力をうまく活用していくことが一つの策としてある。パートの労働力をうまく活用していくには、工程を洗い出し、細分化し仕事に人を当てはめていくやり方がある。」

○商工課「市では、高齢者の働く仕組みを現在検討中。選ばれる企業となるためには何が必要か。企業及び市の立場で意見を出してほしい。」

○部会の主な意見

- ・企業内保育所は昭和 30 年代にもあった。今ほど公的な保育所が整備されていなかったためだと思う。
- ・シニアの活用については瑞浪市（陶）で多く活用している企業がある。シニアを活用するには工程を細分化する必要がある。自社では定年後も働けるように、休みを多くしたり、勤務し易い体制をとったりしている。
- ・女性の活用については、これからやっていきたいところではあるが、働きたい女性がどれだけいるか分からないので、そこを見極めてから進めたい。
- ・女性パートの活用については、地域ごとの調査が必要。大井町の人が多くても、山岡には行かない。
- ・同じ地区ばかりになると、保育園や学校の運動会があるとき、みんな休みになるため大変。
- ・事例であった保育所は市が運営するのか。
- ・企業が設置・運営する。
- ・企業内保育所は、デイサービスを行っている会社等がよくやっていると聞く。非常に良いことだと思う。
- ・自社は半分強が交代勤務で日勤者は少ない。現場は 3K のため人が集まらない。シニアの活用については、現場は体力的に難しいと考えている。他の業務では怪我や事故がネックとなる。
- ・静岡の機械メーカーの話では、静岡は東京が近いと恵那以上に若年層の人口流出が進んでいるとのことだった。静岡県では県外から従業員を連れてくると補助金が入るといいう制度があるようだ。恵那市も取り入れても面白い。
- ・建設業は現場が多い業種となる。内勤（総務）、現場作業員と現場責任者の 3 パターンに分けることができる。内勤は人が採れるが、現場は不規則となるため人が採れない。運良く今年は現場で数名雇用できたため職場が若返った。現場は責任が大きいと若い子は敬遠がちになる。
- ・建設業は定年がルーズで、資格や経験がものを言う世界のため、シニアの活用は十分に考えられる。建設業はシニア層が活躍できる場が多いと思う。
- ・自社では専門性の高い製品を取り扱っているため、製造現場ではパートの活用は難しい。製造業の中ではクリーンな環境を保っているため、製品検査の部門ではパート（女性）を活用している。これからも増やしていく計画でいる。
- ・人手不足や社員の労働環境の改善のため、自社で取り組んでいることは、1 日の勤務時間を延ばして、休日を増やした。
- ・BtoB の業態では企業イメージを上げることは難しい。三条市の諏訪田製作所では、製造業ではあるが、加工場をオープンファクトリーとし、観光客を受け入れ、3K の仕事にはなるが、作業をカッコ良く見せている。取り扱っている製品については、会議所が中心となりブランディングを行い高付加価値なものとなっている。パリにも持っていった。面白いやり方だと思う。

- ・シニアの活用については、社員が専門性の高い仕事に専念できるように、庶務、雑務的なところをシニアにお願いする形で住み分けを行っている。
- ・女性は家庭が第一に考えている。仕事はその次。こういう考え方の人を企業がうまく活用できるかが課題となる。
- ・シニアの働き方もバラバラ。小遣い稼ぎの人もいれば、しっかり働きたい人もいる。
- ・企業は労働環境の整備。市は移住定住の支援を行うというのも一つの案。ただしターゲットと地域を絞る必要がある。島根県ではバツイチ男性、シングルマザーを対象にした移住支援を行っている。近所付き合いが嫌だ等の市場のニーズを捉えたものになる。
- ・市が住宅を整備して、働き口はこういうところがあると同じテーブルに乗せてPRするのも面白いと思う。ターゲットについてはまだ分からないが、人と会話をする事が苦手なため製造業を選ぶ人もいる。
- ・自社にも会話が苦手なため製造業を選択した社員がいる。探せば結構いると思う。
- ・面白い案だと思う。
- ・移住定住支援で仕事を出している自治体はあるか。
- ・ない。
- ・性格によってこういう職場があるというPRの仕方は面白い。
- ・市内企業の競争にも繋がる。
- ・市は恵那での暮らしをイメージできるように明確に情報発信し、受け皿となる企業が働きやすさの情報を発信する。都会では通勤時間に2時間掛ける人がいるが、恵那ではその2時間で何ができるかを発信していく。
- ・自社ではモデル賃金を取り入れた。今の賃金、評価別の賃金での生涯賃金を社員に示し、社員が将来設計出来るようにした。結果的に人件費は増加したが、社員のモチベーションは上がった。
- ・社員側は安心感を得ることができ定着に繋がると思う。
- ・市には何とか住宅を作ってもらいたい。家が恵那にあれば、仕事で遠くにいても、いずれは恵那に帰ってくる。恵那に住まわせる方策が必要。
- ・ターゲットは30代から40代か。
- ・難しいところだと思う。年がいった独身者でも良いのではないか。仕事があれば移住し易い。
- ・ターゲットは明確にする必要がある。就労条件に当てはまる人。
- ・どうやってターゲットを絞るか、発信するかが課題か。
- ・出口調査を行う。毎年どれくらいの雇用が必要か。新卒、シニア、パート等のカテゴリー別にどういう人物像（性格、技術）が必要か。そこから出てきたターゲットに対しどういう形の情報発信が必要かを考える。
- ・この部会で決めるのか。商工会等には広げないのか。
- ・戦略・戦術的なところとなるため、ここで決める。

○三輪「次回の部会までに労働力、求める人物像（性格、能力）のアンケートを行いたい。用紙はこちらで作成するので、次回の部会ではそれを記入して持ってきて欲しい。」

工業部会まとめ

テーマ「働きやすい環境づくり」

■職場の現状

「働きたい女性がどれくらいいるか不明」「パートの活用には作業工程の細分化が必要」「現場は不規則で採用困難」「建設業は資格や経験が生かせるためシニア活用できる」「労働環境改善のため休日を増やす」「モデル賃金でモチベーションアップ」「他社では加工場に観光客を受け入れ作業をカッコよく見せる工夫」

■展望

「地域ごとの労働力調査が必要」「ターゲットと地域を絞る」「性格による職場PR」「企業は労働環境整備と情報発信、市は移住定住支援と暮らしをイメージできる情報発信」「県外からの雇用に補助金」

3. 次回検討部会の開催について

○商工課「今回は、平成 29 年 11 月 14 日月曜日から、市役所会議棟中会議室で開催します。よろしくお願いします。」

4. 閉会